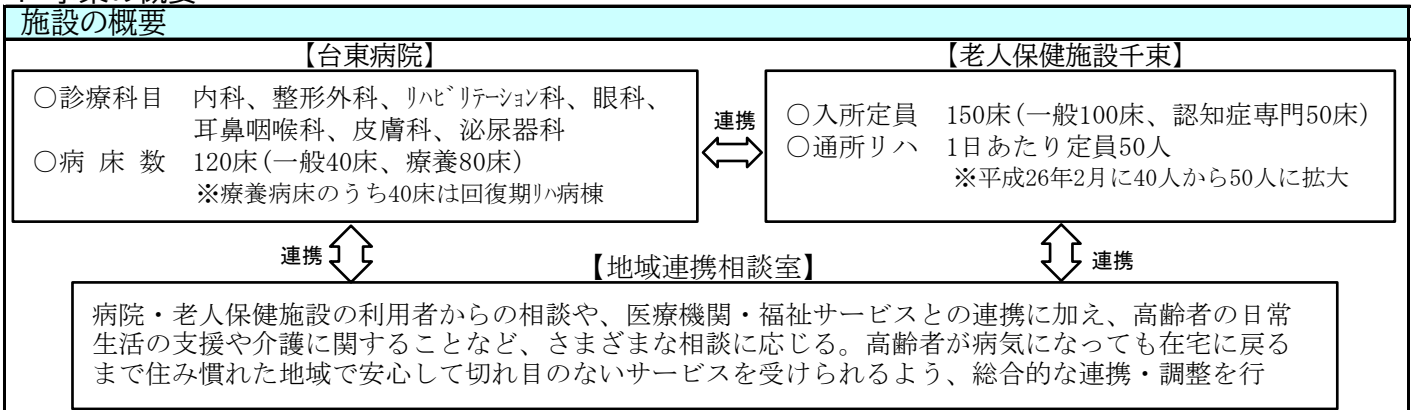


令和2年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表  
(令和元年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区(病院所管課:健康部健康課、老健所管課:福祉部高齢福祉課)
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	○新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 ○基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 ○地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	①役割・機能、②効率性・経済性、③計画性・改善状況等

1 事業の概要



施設の基本理念

- 高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。
- 高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。
- 高齢者が施設や在宅に必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。
- 安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。
- 快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。
- 『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。

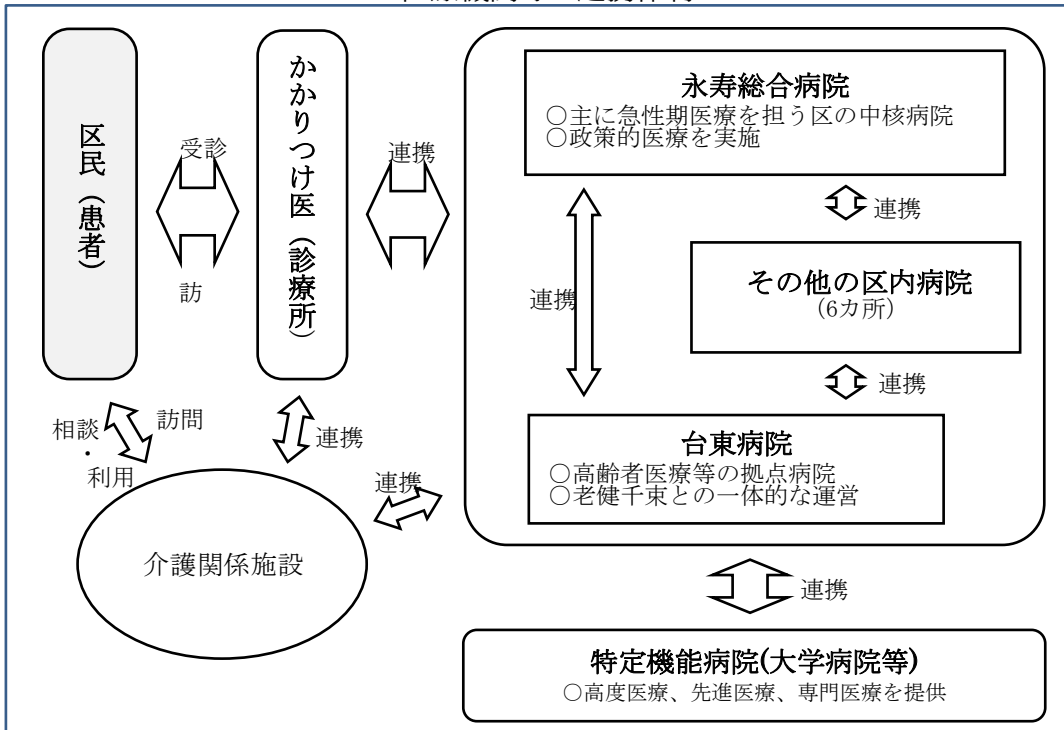
基本方針

台東病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合医を中心としたチームによる医療を提供します。</li> <li>○利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。</li> <li>○関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活を送れるよう、医療を提供します。</li> <li>○医療従事者の育成と資質の向上に努めます。</li> <li>○区の小児初期救急医療のしくみを補完します。</li> <li>○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。</li> </ul>
老健千束	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良質で包括的なサービスを提供します。</li> <li>○利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。</li> <li>○地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。</li> <li>○病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。</li> <li>○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。</li> </ul>

## 2 指定管理者の運営理念等

<b>運営理念</b>
『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します
<b>運営基本方針</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者医療に力をいれます</li> <li>○ 在宅医療を支援します</li> <li>○ まずは受け入れるという姿勢を持ちます</li> <li>○ 地域と連携してサービスを提供します</li> <li>○ 医療に恵まれない地域の支援を行います</li> </ul>

### <医療機関等の連携体制>



### 3 事業の現況とその推移

#### (1) 経営の状況

(1,000円未満を四捨五入、単位:千円)

区分		29年度	30年度	R元年度	前年度比	主な計上科目	
台東病院	収益	医業収益	2,026,018	2,064,818	2,105,059	40,241	入院・外来収益等
		医業外収益	127,908	136,530	115,003	△ 21,527	指定管理料・売店収益等
		合計	2,153,926	2,201,348	2,220,062	18,714	
		(うち指定管理料)	44,280	44,280	18,530	△ 25,750	指定管理料
	費用	医業費用	2,105,905	2,147,324	2,213,505	66,181	給与費・材料費・委託費等
		医業外費用	69,779	69,007	77,892	8,885	売店運営費用
		合計	2,175,684	2,216,332	2,291,397	75,065	
	損益	医業損益	△ 79,887	△ 82,506	△ 108,445	△ 25,939	—
		医業外損益	58,129	67,523	37,110	△ 30,413	—
合計		△ 21,758	△ 14,984	△ 71,335	△ 56,351		
老健千束	収益	事業収益	923,205	953,661	1,014,669	61,008	入所・通所収入収益等
		事業外収益	5,609	7,329	7,702	373	患者外給食委託費等
		合計	928,814	960,990	1,022,371	61,381	
		(うち指定管理料)	0	0	0	0	—
	費用	事業費用	811,390	844,377	854,730	10,353	給与費・材料費・委託費等
		事業外費用	26,000	22,972	29,787	6,815	患者外給食委託費等
		合計	837,390	867,349	884,517	17,168	
	損益	事業損益	111,815	109,284	159,939	50,655	—
		事業外損益	△ 20,391	△ 15,643	△ 22,085	△ 6,442	—
合計		91,424	93,641	137,854	44,213		
全体	収益	事業収益	2,949,223	3,018,479	3,119,728	101,249	
		事業外収益	133,517	143,860	122,704	△ 21,156	
		合計	3,082,740	3,162,338	3,242,433	80,095	
		(うち指定管理料)	44,280	44,280	18,530	△ 25,750	
	費用	事業費用	2,917,295	2,991,701	3,068,235	76,534	
		事業外費用	95,779	91,980	107,679	15,699	
		合計	3,013,074	3,083,681	3,175,914	92,233	
	損益	事業損益	31,928	26,778	51,493	24,715	
		事業外損益	37,738	51,880	15,026	△ 36,854	
合計		69,666	78,658	66,519	△ 12,139		

#### 収支の概要

台東病院	<p>前年度と比べ、医業収益は約4,024万円(1.9%)増の21億506万円、医業費用は約6,618万円(3.1%)増の22億1,351万円で、医業損益は約2,594万円減の1億845万円の赤字となった。</p> <p>医業外収益は約2,153万円(15.8%)減の1億1,500万円(指定管理料1,853万円を含む)、医業外費用は約889万円(12.9%)増の7,789万円で、医業外損益は約3,041万円(45.0%)減の3,711万円の黒字となった。なお、令和元年度より、指定管理料が2,575万円(58.2%)減の1,853万円となった。</p> <p>この結果、台東病院全体の損益は約5,635万円減の7,134万円の赤字となった。</p>
老健千束	<p>前年度と比べ、事業収益は約6,101万円(6.4%)増の10億1,467万円、事業費用は約1,035万円(1.2%)増の8億5,473万円で、事業損益は約5,066万円(46.4%)増の1億5,994万円の黒字となった。</p> <p>事業外収益は約37万円(5.1%)増の770万円、事業外費用は約682万円(29.7%)増の2,979万円で、事業外損益は約644万円(41.2%)減の2,209万円の赤字となった。</p> <p>この結果、老健千束全体の損益は約4,421万円増の1億3,785万円の黒字となった。</p>

(2)運営の状況

①役割・機能  
【台東病院】

区分		29年度	30年度	R元年度	前年度比	備考
体制	職員数	152.1人	147.8人	153.0人	5.2人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算人数 ○職員数合計は医師、看護・介護職員、リハビリ職員の合算
	医師	17.0人	17.0人	17.6人	0.6人	
	常勤医師	10.5人	10.5人	11.5人	1.0人	
	非常勤医師	6.5人	6.5人	6.1人	△0.4人	
	看護・介護職員	102.6人	98人	101.5人	3.5人	
	リハビリ職員	32.5人	32.8人	34.0人	1.2人	
入院	病床利用率	91.8%	90.8%	90.8%	0.0%	病床利用率=入院延べ患者数÷延べ病床数×100
	一般	89.2%	89.7%	88.4%	△1.3%	
	回復期リハ	92.5%	91.6%	91.9%	0.3%	
	療養	93.8%	91.2%	92.2%	1.0%	
	延べ入院患者数	40,226人	39,779人	39,885人	106人	令和元年度に新たに入院した患者数
	50歳代以下	4.6%	5.8%	3.2%	△2.6%	
	60歳代	8.7%	6.9%	5.7%	△1.2%	
	70歳代	25.4%	22.0%	19.5%	△2.5%	
	80歳代	40.9%	44.5%	47.7%	3.2%	
	90歳代以上	20.5%	20.8%	23.9%	3.1%	
	新入院患者数	1,085人	1,080人	1,175人	95人	令和元年度に新たに入院した患者数
	一般	865人	837人	967人	130人	
	回復期リハ	136人	161人	126人	△35人	
	療養	84人	82人	82人	0人	
平均在院日数	37.0日	36.9日	34.0日	△2.9日	延べ入院患者数÷{(新入院患者数+退院患者数)÷2}	
一般	17.3日	17.8日	15.7日	△2.1日		
回復期リハ	68.0日	65.1日	65.6日	0.5日		
療養	102.6日	98.3日	94.0日	△4.3日		
台東区民の占める割合	84.9%	85.6%	87.0%	1.4%		
回復期リハ病棟の在宅復帰率	80.1%	84.5%	98.0%	13.5%	1年間分	
外来	延べ患者数	74,957人	75,568人	73,961人	△1,607人	
	1日平均患者数	255.8人	258.8人	252.4人	△6.4人	延べ患者数÷外来診療日数
	初診患者数	11,306人	11,559人	11,826人	267人	初診料を算定した患者数
	新患率	15.1%	15.3%	16.0%	0.7%	初診患者数÷延べ患者数×100
	台東区民の占める割合	87.7%	87.6%	87.8%	0.2%	
	初期救急患者数	1,032人	987人	987人	0人	
	救急車受入数	332人	273人	313人	40人	
来院患者数	700人	714人	674人	△40人		

【老健千束】

区分		29年度	30年度	R元年度	前年度比	備考
体制	職員数	84.2人	85.7人	83.0人	△2.7人	○年度末を基準とする ○全て常勤換算人数
	医師	1.5人	1.5人	1.5人	0.0人	
	介護・看護職員	74.2人	74.4人	70.0人	△4.4人	
	リハビリ職員	8.5人	9.8人	11.5人	1.7人	
入所	入所利用率	91.8%	92.4%	94.5%	2.1%	延べ入所者数÷延べベッド数×100
	1日あたり短期入所者数	9.6人	9.4人	9.3人	△0.1人	延べ短期入所者数÷365日(閏年は366日)
	延べ入所者数	50,261人	51,194人	51,877人	683人	延べ入所者数は長期入所と短期入所(ショートステイ)の合算
	60歳代以下	1.0%	3.1%	3.5%	0.4%	
	70歳代	8.1%	10.1%	9.5%	△0.6%	
	80歳代	44.3%	39.4%	45.7%	6.3%	
	90歳代以上	46.6%	47.3%	41.3%	△6.0%	
	平均在所日数	225.6日	244.5日	229.3日	△15.2日	入所延べ日数÷{(新規入所者数+退所者数)÷2} ※1年間分
	回転率	13.4%	12.4%	13.3%	0.9%	月間平均暦日数÷平均在所日数×100
台東区民の占める割合	99.9%	99.9%	99.9%	0%		
在宅復帰率	36.9%	45.1%	42.8%	△2.3%	退所先が自宅やグループホーム等の割合	
通所	1日あたりの利用者数	43.0人	41.8人	40.9人	△0.9人	延べ利用者数÷通所営業日数
	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0%	

【連携等】

区分		29年度	30年度	R元年度	前年度比	備考	
地域連携相談室	職員数	9.0人	10.0人	12.0人	2人	全て常勤換算人数	
	社会福祉士	2.0人	2.5人	3.0人	0.5人		
	支援相談員	2.0人	2.5人	3.0人	0.5人		
	介護支援専門員	2.0人	2.0人	3.0人	1人		
	事務員	3.0人	3.0人	3.0人	0人		
	相談件数	1,931件	2,111件	2,381件	270件	主たる内容により区分	
	入院(一般)	865件	837件	964件	127件		
	入院(回復期リハ)	355件	408件	397件	△11件		
	入院(療養)	155件	203件	232件	29件		
	入所	354件	471件	604件	133件		
通所	202件	192件	184件	△8件			
紹介	入院患者	547人	577人	519人	△58人	○検査依頼を除く、医師の紹介状(診療情報提供書)を持参した患者数 ○紹介率=(紹介状持参患者数+救急患者数)÷初診料算定患者数 = 14.3 %	
	一般	345人	341人	314人	△27人		
	回復期リハ	125人	159人	127人	△32人		
	療養	77人	77人	78人	1人		
	診療所からの紹介(再掲)	150人	148人	125人	△23人		
	外来患者	938人	940人	857人	△83人		
	病院から	428人	425人	352人	△73人		
	診療所から	489人	500人	453人	△47人		
施設から	21人	15人	52人	37人			
逆紹介	入院患者	376人	387人	470人	83人		○診療情報提供料を算定した患者数(返送患者を含む) ○逆紹介率=診療情報提供料算定患者数÷初診料算定患者数 = 16.8 %
	一般	194人	189人	228人	39人		
	回復期リハ	111人	136人	158人	22人		
	療養	71人	62人	84人	22人		
	診療所への逆紹介(再掲)	150人	167人	177人	10人		
	外来患者	1,314人	1,472人	1,511人	39人		
	病院へ	955人	1,090人	1,100人	10人		
	診療所へ	281人	304人	307人	3人		
施設へ	15人	12人	26人	14人			
宛名なし等	63人	66人	78人	12人			
返送	入院患者	114人	125人	114人	△11人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送(診療情報提供料を算定)した患者数	
	一般	59人	64人	64人	0人		
	回復期リハ	33人	42人	42人	0人		
	療養	22人	19人	8人	△11人		
	診療所への返送(再掲)	73人	78人	65人	△13人		
入退院患者・入退所者の経路	新入院患者	自宅から	50.2%	46.6%	50.1%	3.5%	新入院患者の総数は、 29年度1,085人、30年度1,080人、令和元年度1,175人
		診療所からの紹介	13.8%	13.7%	10.6%	△3.1%	
		他病院からの紹介	25.5%	31.0%	29.2%	△1.8%	
		福祉施設等から	7.5%	5.3%	6.6%	1.3%	
		老健千束から	3.0%	3.4%	3.5%	0.1%	
	退院患者	自宅へ	48.2%	47.0%	45.5%	△1.5%	退院患者の総数は、 29年度1,090人、30年度1,077人、令和元年度1,177人
		診療所への逆紹介	13.7%	15.5%	15.0%	△0.5%	
		他病院への転院	6.3%	7.8%	8.0%	0.2%	
		他病院の外来への紹介	4.8%	4.6%	5.9%	1.3%	
		福祉施設等へ	9.7%	8.0%	11.0%	3.0%	
		老健千束へ	7.9%	6.5%	5.8%	△0.7%	
	看取り	9.4%	10.6%	8.8%	△1.8%		
	新入所者	自宅から	36.2%	34.9%	38.4%	3.5%	新入所者の総数は、 29年度235人、30年度218人、令和元年度198人
		福祉施設等から	2.6%	2.8%	4.0%	1.2%	
		台東病院から	36.2%	32.1%	34.3%	2.2%	
		他の病院から	25.0%	30.3%	23.2%	△7.1%	
退所者	自宅へ	25.3%	27.6%	29.6%	2.0%	退所者の総数は、 29年度233人、30年度217人、令和元年度196人	
	福祉施設等へ	40.8%	37.8%	35.2%	△2.6%		
	台東病院へ	13.7%	17.1%	20.9%	3.8%		
	他の病院へ	8.2%	8.8%	4.6%	△4.2%		
看取り	12.0%	8.8%	9.7%	0.9%			
緊急一時病床利用者数		172人	155人	142人	△13人	うち在宅療養患者の受入は61人	
退院前カンファレンス件数		218件	194件	168件	△26件	多職種による検討会の実施件数	
訪問リハビリテーション延べ利用者数		2,226件	2,354件	2,880件	526件	平成23年2月より実施	



## ②経営分析

区分		29年度	30年度	R元年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	99.0%	99.3%	96.9%	△2.4%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	2.0%	2.0%	0.8%	△1.2%	指定管理料÷総費用×100	
	医業収益に対する職員給与費比率	71.1%	71.2%	71.2%	0.0%	職員給与費÷医業収益×100	
	医業収益に対する委託費比率	5.8%	5.8%	6.9%	1.1%	委託費÷医業収益×100	
	医業収益に対する材料費比率	14.6%	14.3%	14.2%	△0.1%	材料費÷医業収益×100	
	病床利用率	91.8%	90.8%	90.8%	0.0%	入院延べ患者数÷延べ病床数×100	
	1日外来患者数	255.8人	258.8人	252.4人	△6.4人	延べ患者数÷外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	33,471円	33,836円	34,414円	578円	入院収益÷入院延べ患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	6,962円	7,228円	7,237円	9円	外来収益÷外来延べ患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	338,013円	284,622円	298,159円	13,537円	(入院収益+外来収益)÷年延べ医師数(看護・介護職員数)	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	50,371円	51,595円	49,885円	△1,710円		
	CT	稼働率	56.2%	60.5%	59.3%	△1.2%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(20件)×外来診療日数)×100
		検査件数	3,295件	3,534件	3,474件	△60件	
うち検査依頼受付件数		305件	346件	286件	△60件		
MRI		稼働率	75.4%	75.4%	83.0%	7.6%	
		検査件数	2,651件	2,641件	2,184件	△457件	
		うち検査依頼受付件数	423件	477件	348件	△129件	
老健千束	事業収支比率	110.9%	110.8%	115.6%	4.8%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	0	0%	指定管理料÷総費用×100	
	事業収益に対する職員給与費比率	55.6%	56.6%	53.3%	△3.3%	職員給与費÷事業収益×100	
	事業収益に対する委託費比率	13.5%	12.8%	11.3%	△1.5%	委託費÷事業収益×100	
	入所利用率	91.8%	92.4%	94.5%	2.1%	入所延べ患者数÷延べベッド数×100	
	1日通所利用者数	43.0人	41.8人	40.9人	△0.9人	延べ利用者数÷通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	14,663円	14,746円	15,717円	971円	入所収益÷入所延べ患者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	10,739円	11,821円	11,845円	24	通所収益÷通所延べ患者数	

## ③計画性・改善状況等

区分		29年度	30年度	R元年度	前年度比	備考
講演会		17件	6件	5件	△1件	喫煙防止教室、がん禁煙講演
その他区民向けイベント		23件	22件	21件	△1件	認知症カフェ、看護の日イベント
投書件数		52件	56件	75件	19件	
	謝意	19件	26件	38件	12件	
	助言	6件	9件	3件	△6件	
	苦情	27件	21件	34件	13件	

### 主な意見と対応

- 【謝意】 ○ ベットから起きるのが精一杯なほど弱っていたが、献身的なケアとリハビリテーションのおかげでトイレや歩行が出来るようになり、退院後の自立した生活への復帰に自信がついた。
- 【助言】 ○ バス・タクシーを待っている際に座りたいので、屋外に長イスを置いてほしい。  
⇒通路に設置することになり安全面の課題があるため、引き続き検討する。
- 【苦情】 ○ 予約診療にもかかわらず、1時間以上待たされた。  
⇒診療上、待たせてしまうことが生じうるが、待合での患者への声がけを徹底する。

## ④その他

### 居宅介護支援事業所千束(自主事業)

令和元年度より1名が復職し2名体制となったため、担当件数が増加したが、一方で、請求につながらないケース(入院中から介入するも在宅退院に至らなかったケース、ケアプランが居宅療養管理指導料のみや自費による福祉用具貸与のみのケース等)もあったため、介護給付管理件数(請求件数)は月平均47名に留まった(30年度月平均37.0名)。

今後も2名体制を維持しつつ、介護給付管理件数(請求件数)の増加に努めていく。

4 評価

【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

(1) 役割・機能の評価

<p><b>①台東病院が慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか</b> ※医療連携については別途評価</p>	
<p>【参考指標】入院患者、外来患者の実績(P4)など</p>	
<p>事業者 評価</p> <p>A</p>	<p>根拠</p> <p>前年度と比べ、外来患者数は減少したが、新入院患者数が95人(8.8%)増加し、平均在院日数が病棟全体で2.9日(7.9%)減少し、回復期リハ病棟の在宅復帰率も向上している。入院患者の約9割は70歳以上であり、病床利用率は90%以上を維持し、急性期病院からの回復期・慢性期病棟への受入や、在宅復帰に向けた多職種による医療環境の調整、支援、それらに必要な訪問リハビリテーション等の体制を整えており、慢性期医療(高齢者医療)を担う拠点病院として機能している。</p>
<p>協議会 評価</p> <p>A</p>	<p>根拠</p> <p>外来部門については、3月の新型コロナウイルス感染症の影響及び皮膚科非常勤医師の一時的な減員により、外来患者数が減少したが、入院部門については、新入院患者数は増加し全病床の合計利用率は90%を超え、堅調に推移している。また、回復期リハ病棟の在宅復帰率は向上し90%を超えており、急性期病院からの受入や、多職種による調整、支援等による在宅復帰に向けた体制を整えていることから、慢性期医療(高齢者医療)を担う拠点病院として機能していると評価できる。</p>

<p><b>②老人保健施設千束が在宅復帰に向けた入所施設として機能しているか</b> ※地域との連携については別途評価</p>	
<p>【参考指標】入所者の実績(P4)など</p>	
<p>事業者 評価</p> <p>A</p>	<p>根拠</p> <p>在宅復帰支援の質を高めるため、社会福祉士の採用を行い、在宅復帰予定者への入所前後訪問、退所前後訪問の取り組みを行った。 これらの取り組みの結果、前年度比で入所前後訪問率が5ポイント増の20.1%、退所前後訪問率が17.1ポイント増の55.0%となり、「在宅強化型」の施設基準を維持しつつ、令和元年11月には「在宅復帰在宅療養支援機能加算Ⅱ」も取得した。 「在宅強化型」以上の施設基準を取得している老健は、全国で26.8%(全国老人保健施設協会より)であることから、在宅復帰に向けた入所施設として機能している。</p>
<p>協議会 評価</p> <p>A</p>	<p>根拠</p> <p>在宅復帰率は前年度に比べ微減となっているが、在宅復帰予定者への入退所前後の訪問率は増となっている。このことから、「在宅強化型」の施設基準を維持しつつ、「在宅復帰在宅療養支援機能加算Ⅱ」も取得しており、在宅復帰に向けた入所施設として機能していると評価できる。</p>

<p><b>③医療機関等との連携は適切に行われているか</b></p>	
<p>【参考指標】医療連携の実績(P5)など</p>	
<p>事業者 評価</p> <p>A</p>	<p>根拠</p> <p>前年度と比べ、紹介入院患者数は58人減の519人、紹介外来患者数は83人減の857人であり、逆紹介入院患者数は83人増の470人、逆紹介外来患者数は39人増の1,511人であった。 また、地域連携相談室の職員体制を2名増員し、相談件数は270件増加しており、医療機関等との連携は適切に行われている。</p>
<p>協議会 評価</p> <p>A</p>	<p>根拠</p> <p>前年度と比べ、紹介患者数は、10月から1月にかけて実施したMRIの更新に伴う稼働停止により、減少したが、逆紹介患者数は入院部門及び外来部門ともに増加している。 また、地域連携相談室の職員体制を強化し、入院・入所の相談件数が増加していることから、医療機関等との連携は適切に行われていると評価できる。</p>

#### ④台東病院と老人保健施設千束が連携しながら、互いの機能を効果的に発揮しているか

【参考指標】入退所経路の実績(P5)など

事業者 評価 A	根拠	前年度と比べ、老人保健施設千束の入所経路の割合において、台東病院からの入所割合が32.1%から34.3%に増加している。台東病院からの入所実人数については、平成30年度70名、令和元年度68名であり、連携が図られている。 また、引き続き、重症の方は療養病棟、軽症の方は老健で受け入れるという取組みを行うことで、療養病棟入院基本料1の施設基準を維持しており、複合施設の利点、互いの機能を効果的に発揮している。
協議会 評価 A	根拠	台東病院から老人保健施設千束への入所実人数は前年度と比べ微減となっているが、割合は増加しており、連携が図られている。また、病院と老健が受入について役割を分担することにより、療養病棟入院基本料1の施設基準を維持し、診療報酬を確保していることから、複合施設の利点、互いの機能を効果的に発揮していると評価できる。

#### ⑤退院・退所後も、家族等の支援や在宅でのリハビリテーションの支援等により、在宅生活を支援しているか

【参考指標】通所リハビリテーションの実績(P4)、訪問リハビリテーション延利用者数の実績(P5)など

事業者 評価 A	根拠	前年度と比べ、通所リハビリテーションの1日あたりの利用者数は、41.8人から40.9人と微減しているが、引き続き、看護師を常時配置し医療依存度の高い利用者の受入(中重度ケア体制加算届出)を行っている。また、みなし事業である訪問リハビリテーションの延べ利用者数は、2,354件から2,880件と526件増加している。さらに、毎月、認知症カフェを開催しており(新型コロナウイルス感染症の影響により3月は中止)、在宅生活を支援している。
協議会 評価 A	根拠	通所リハビリテーションの1日あたりの利用者数は前年度に比べ微減となっているが、引き続き、看護師を常時配置し医療依存度の高い利用者の受入を行っている。また、訪問リハビリテーションの延べ利用者数は前年度に比べ増加しており、認知症カフェを開催するなど、在宅生活を支援していると評価できる。

#### 【その他】適切な機能水準が満たされているか

平成31年3月に日本医療機能評価機構の病院機能評価(一般病院1)の更新審査を受審し、令和元年5月2日に認定を取得した。評価項目ごと、機能や業務水準について評価・見直しを行っている。



## (2) 効率性・経済性の評価

### ① 台東病院の施設・機器等を効率的に活用しているか

【参考指標】経営分析結果(P6)など

事業者評価 B	根拠	前年度と比べ、延べ入院患者数は106人増の39,885人、病床利用率は横ばいの90.8%となったが、3月の新型コロナウイルス感染症の影響及び皮膚科非常勤医師の一時的な減員により、延べ外来患者数は1,607人減の73,961人、1日あたりの外来患者数は6.4人減の252.4人となった。また、放射線機器については、CTは60件減の3,474件、MRIは457件減の2,184件、うち他院からの依頼が、CTは60件減の286件、MRIは129件減の348件である。目標検査件数(CT 5,840件、MRI 2,700件)には届いていないため、施設・機器等については効率的な活用に努める必要がある。
協議会評価 B	根拠	施設については、3月の新型コロナウイルス感染症の影響及び皮膚科非常勤医師の一時的な減員により、外来患者数が減少しているが、延べ入院患者数は増加し、病床利用率が堅調に推移していることから、効率的に活用されていると評価できる。CT、MRIといった高額医療機器については、地域の医療機関等からの依頼に短期間で対応しているが、目標件数に達していないため、検査件数の増加に取り組み、効率的に活用することが求められる。

### ② 老人保健施設千束の施設等を効率的に活用しているか

【参考指標】経営分析結果(P6)など

事業者評価 A	根拠	入所利用率は、前年度比2.1ポイント増の94.5%であった。屋上を活用した園芸療法や、エントランスを使用した利用者作品展といった行事等にも引き続き取り組んでいる。また、ボランティアによるアロマセラピーの導入に加え、傾聴ボランティアも導入し、地域住民の協力も得ながら効率的に施設等を活用している。
協議会評価 A	根拠	前年度と同様に、屋上やエントランスなどの共用スペースを活用し、多様なリハビリテーションを実施している他、地域住民の協力により各種ボランティアも導入している。入所利用率も前年度に比べ増加しており、施設等を効率的に活用していると評価できる。

### ③ 台東病院の事業運営の効率性は発揮されているか ※医業外収支は評価対象外

【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など

事業者評価 B	根拠	前年度と比べ、医業収益は1.9%増加したものの、医業費用も3.1%の増加となった。材料費比率は0.1ポイント減少の14.2%、給与費比率は横ばいの71.2%、委託費比率は1.1ポイント増加の6.9%であった。給与費比率については、運営協議会において改善努力を求められている。また、前年度同様、設備関係費について経年劣化による修繕や新規備品の購入増加や、人件費の高騰等による委託費の増加が見込まれることから、今後も計画的な事業運営に努め、適正な経営に取り組む必要がある。
協議会評価 B	根拠	新入院患者数の増加により、医業収益は改善したが、消費税率の引上げの他、職員給与費、人件費の高騰等による委託費の増加により、赤字となっている。今後も、それらの費用の増加が見込まれる中、給与費比率の改善など効率的な運営に取り組むことが求められる。

### ④ 老人保健施設千束の事業運営の効率性は発揮されているか ※事業外収支は評価対象外

【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など

事業者評価 A	根拠	在宅復帰率だけに捉われず、在宅復帰が見込まれない重度者や医療依存度が高い利用者も受け入れる取り組みを継続すると共に、在宅復帰支援の質をさらに高めるため、令和元年10月に社会福祉士1名を増員し、入退所前後の訪問等に取り組んだ。その結果、在宅復帰率等も高まり、同年11月には「在宅強化型」の施設基準に加え、「在宅復帰在宅療養支援機能加算Ⅱ」も取得することができた。前年度比で利用率も上昇し、収益増にもつながっているため、事業運営の効率性は十分に発揮されている。
協議会評価 A	根拠	社会福祉士1名を増員し、入退所前後の訪問等に取り組んだことにより、「在宅強化型」の施設基準に加え、「在宅復帰在宅療養支援機能加算Ⅱ」も取得している。前年度に比べ利用率も上昇し、収益増になっていることから、事業運営の効率性は発揮されていると評価できる。

### (3) 計画性・改善状況等の評価

①前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
【参考指標】前年度評価表(別紙)など	
事業者 評価 A	根拠 「地域の在宅医と連携して、在宅療養患者の急変時の受入など、在宅療養の後方支援の充実に努めて欲しい。」との意見については、令和2年2月に下谷・浅草両医師会と台東病院による部会を設け、検査可能時間の延長や患者登録制度などの検討を始めている。
協議会 評価 A	根拠 下谷・浅草両医師会と台東病院による部会を設けて、在宅療養患者の急変時の受入など、在宅療養の後方支援の充実に努めるための検討が始められていることから、運営協議会の意見を活かしていると評価できる。

②利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
【参考指標】投書件数、主な意見と対応(P6)	
事業者 評価 A	根拠 利用者からの意見を受け、外来待ち時間対策として、看護師の見回りによる声かけに加え、外来患者の待合スペースに新たに電子掲示板(デジタルサイネージ)を設置し、施設に関する情報や医療・介護の情報を提供し、待ち時間の負担軽減を図っている。 引き続き、ご意見箱(皆さまのお声)への投稿等様々な場所にて頂いた意見に対し一括管理を行い、ご意見の内容、それに対する改善・対応に関して掲示しており、意見の共有及び対応に関する取り組みを行っている。
協議会 評価 A	根拠 利用者から寄せられた意見について管理・共有ができる体制を整えており、外来待ち時間対策として、看護師の見回りによる声かけなど、適切な対応に努めている。また、デジタルサイネージを外来患者の待合スペースに新たに設置することにより、施設に関する情報や医療・介護の情報を提供している。利用者からの投書に対して丁寧な対応に努めるなど、利用者や区民の意見を取り入れた運営が行われていると評価できる。

③区立の病院・老人保健施設だからこそできる役割を果たしているか	
事業者 評価 A	根拠 「認知症カフェ」、「看護の日イベント」、「台東病院・老人保健施設千束祭」などの区民向けイベントを実施し、好評を博した。また、病院においては、認知症、生活困窮者、住所不定者、虐待が疑われる社会的問題を抱えた患者等を、老健においては、他の施設での入所が難しいとされる在宅復帰が困難な利用者、医療依存度が高い利用者等を受け入れている。病院と老健が併設していることによるスムーズな受入もできており、区立施設としての役割を果たしている。
協議会 評価 A	根拠 「認知症カフェ」、「看護の日イベント」などの区民向けイベントは定着しており、令和元年度からは新たに「台東病院・老人保健施設千束祭」を開催した。また、他の医療機関や施設では対応が困難とされるケースの受入を行っており、区立の病院・老人保健施設だからこそできる役割を果たしていると評価できる。

④計画性を持って、台東病院・老人保健施設千束を運営しているか	
事業者 評価 A	根拠 毎週の幹部会議や毎月の事業推進会議にて、運営状況の確認や課題の検討を行い、朝礼、研修会等で職員が病院・老健のあり方、目指すべき方向を認識できるようにしている。また、多職種によるワークショップを行い、将来像や改善策を協議した結果を運営に取り入れている。部門・部署毎では、管理職対象の目標管理制度を実施するなど、業務改善に取り組んでいる。年度末の全部署参加の報告会にて評価・検証を行う等、計画性を持って運営している。
協議会 評価 A	根拠 幹部会議や事業進捗会議で検討を行った病院・老健のあり方や目指すべき方向について、すべての職員が共有する体制を整えている。多職種によるワークショップにおいて挙げた職員の意見を運営に取り入れている。将来に向けた意思決定に職員が参画している。また、管理職対象の目標管理制度の実施などにより業務改善にも取り組むなど、計画性を持って施設を運営していると評価できる。

## 5 総合評価等

### 【総合評価】

台東病院については、3月の新型コロナウイルス感染症の影響などにより、外来患者数が減少しているが、病床利用率及び在宅復帰率は堅調に推移しており、多職種による在宅復帰に向けた支援体制も維持している。紹介患者数は減少したが、逆紹介患者数は入院及び外来部門ともに増加し、連携の強化にも取り組んでいることから、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。

老健千束については、入退所前後の訪問等に取り組み、「在宅強化型」の施設基準に加え、「在宅復帰在宅療養支援機能加算Ⅱ」も取得しており、利用率も上昇している。また、新たなボランティアの導入や多様なリハビリテーションの実施にも継続的に取り組んでおり、在宅復帰に向けた入所施設として機能していると評価できる。

収支については、台東病院は、医業収益は改善したものの、消費税率の引上げの他、職員給与費や委託費の増加により赤字となっている。老健千束は上位の施設基準の取得や、利用率の上昇により増収となっており、事業収益は黒字を維持している。施設全体では損益は黒字となっており、経営状況は概ね良好であると認められる。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響による外来患者数の減少などが見込まれるため、引き続き効率的な運営に取り組む必要がある。

その他、施設の運営については、利用者等からの意見を活かした改善の取組みや、ワークショップを通じた職員の運営への参画等がなされており、計画的な運営を行っている。また、他の医療機関や施設では対応が困難とされるケースを受け入れており、区立施設としての役割を果たしている。

医療機関等にとっては厳しい経営環境にあるが、今後とも、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、利用者や運営協議会等の意見を活かしながら、区や地域の医療機関等と連携して、質の高いサービスの提供を図ることが求められる。

### 【その他意見】

- 高齢者や急性期治療後の患者に対するリハビリテーションは評価している。引き続き、充実に努めてほしい。
- 区のPCR検査センターに医師や看護師などの派遣を行っているが、今後も区立病院として必要な役割を果たしてほしい。